

事務事業評価シート

(評価対象年度：平成30年度)

1. 基本的事項【PLAN】

①事務事業名		車両管理事業				②事業番号		2108	
③事業類型		4. 施設等維持管理事業		④開始年度		年度		⑤終了予定年度	
						年度		○ 設定なし	
⑥根拠法令等		○ 法令		条例		規則		要綱	
								計画等	
								○ その他	
								法令等の名称	
								泉南市車両規程 他	
⑦実施手法		直営		全部委託		一部委託		補助・負担	
								その他	
⑧関連予算科目コード		款		2		項		1	
								目	
								8	
								細目	
								3	
⑨担当部名		総務部		⑩担当課名		総務課		会計	
								一般会計	

2. 事務事業の現状把握【DO】

〔1〕事務事業の目的・事業内容

(1)対象(誰、何に対して事業を行うのか)		対象指標(対象者数を表す指標)		単位	
① 公用車		① 公用車		台	
②		②			
(2)事業内容(具体的な事務事業の内容、どのような方法で実施しているか)		活動指標(活動の量を表す指標)		単位	
車検業務は市内業者で見積合わせのうえ依頼。車両修繕は直近車検受任業者に原則依頼。自賠責保険加入については、市内業者に均等に割振依頼。任意保険については全国市有物件災害共済会に依頼。また、車両月報による管理担当課からの報告により使用状況を把握し、早期修繕を行い事故・故障の防止に努める。		① 公用車車検数		回	
		② 公用車修繕件数		件	
		③			
(3)意図(対象をどのような状態にしたいか、何をねらっているのか)		成果指標(意図の達成度を表す指標)		単位	
車検整備等により公用車の安全運行をできる状態とし、適正に管理する。また、燃費向上と環境保全に配慮して、低公害車への移行をすすめていく。		① 故障件数		件	
		② 計算式			
		③ 計算式			
(4)結果(対象を意図する状態にすることで、何に結びつくか。上位施策との関連)		総合計画体系上の位置付け			
適正に管理することで、安全な運転・運行及び職員の効率的な業務の手助けとなり資産の有効活用となることから、財政の維持・計画的な財政運営を図ることができる。		政策(章)		6 みんなでまちづくりに取り組むまち	
		施策大(節)		3 将来にわたって安定した行政サービスが提供できるよう、計画的で健全な財政運営をおこなうまちをめざします	
		施策中		1 財政運営の強化	
		施策小		2 持続可能な財政運営	

〔2〕各種指標値、事業費の推移

	指標名	単位	H28実績	H29実績	H30実績	R1見込	R2目標	
対象指標①	公用車	台	64	63	62	62	62	指標値の推移における 特殊要因などの説明
対象指標②								
活動指標①	公用車車検数	回	36	20	36	24	36	
活動指標②	公用車修繕件数	件	55	33	31	39	38	—
活動指標③								
成果指標①	故障件数	件	55	33	31	39	38	
成果指標②	公用車のクリーンエネルギー登録車	台	6	7	5	5	5	事業費などの推移における 特殊要因などの説明
成果指標③								
事業費	投入人員	人	0.30	0.45	0.45	0.45		
	正職員	人	0.00	0.00	0.00	0.00		
	任期付職員	人	0.00	0.00	0.00	0.00		
	臨時職員	人	0.00	0.00	0.00	0.00		
事業費	人件費(投入人員*単価)	千円	2,410	3,614	3,648	3,648		—
	直接事業費	千円	15,749	14,092	14,354	11,220		
	総事業費	千円	18,159	17,706	18,002	14,868		
財源内訳	国庫支出金	千円	0	0	0	0		—
	府支出金	千円	0	0	0	0		
	受益者負担金	千円	0	0	0	0		
	その他特定財源	千円	0	0	0	0		
	一般財源	千円	18,159	17,706	18,002	14,868		

〔3〕事務事業開始の経緯、状況の変化、評価結果への対応

①この事業を開始したきっかけは何か。	公用車の整備及び管理を始め、各課において公用車管理を徹底することで車両管理の徹底を図るため。
②開始から現在までこの事務事業を取り巻く状況は、どのように変化したか。また、今後どのように変化していくと考えられるか。	公用車の整備及び管理を始め、各課において公用車管理を徹底することで車両管理の徹底を図る。
③前年度の評価結果を受けて行った改革・改善の取組はあるか。	長期的展望での購入計画を立案し随時車両の入替を図っている。なお、今年度においては3台の車両を購入した。

3. 事務事業の評価【CHECK】

[1]目的妥当性(必要性)			A.高い	B.やや高い	C.やや低い	D.低い	[1]の評価	A
評価項目		評価及び理由・説明等						
①事務事業の意図すること(目的)は、上位施策(施策小)の達成に貢献しますか。		ア. する イ. ある程度 ウ. しない	車両管理の適正化により、職員が効率的・効果的な運行を行うことができ、行政サービスの質的向上につながる。					
②税金を使って達成する目的ですか。 (市が関与する必要がありますか、市民(特に納税者)の納得が得られますか。民間に類似サービスはありませんか。)		ア. はい イ. ある程度 ウ. いいえ	道路運送車両法に定められている。					
③対象範囲、単価、事業費規模は市民のニーズや社会環境に合っていますか。 (他団体と比較してどうですか。)		ア. 合っている イ. ある程度 ウ. いない	車両の安全性及び運行の効率性は常に求められている。					
④事務事業を休止・廃止した場合、市民生活(あるいは上位施策)への影響はありますか、ある場合それは大きいですか。		ア. 影響がある イ. ある程度 ウ. ない	職員の公務に影響することから、行政サービスの低下につながる。					

[2]有効性			A.高い	B.やや高い	C.やや低い	D.低い	[2]の評価	B
⑤期待どりの成果が得られていますか。		ア. 得られている イ. ある程度 ウ. いない	適正な管理をすることで重大な事故には結びついていない。					
⑥今後事務事業を工夫することで成果向上の余地はありませんか。 (事務事業の成果指標をさらに伸ばすことができますか。)		ア. ある イ. ない	職員それぞれの意識向上を図る。					
⑦庁内の他部署で、類似の目的を持つ事務事業はありませんか、それらと統廃合や連携を行うことで、より成果を向上できませんか。		ア. 類似なし ウ. できる イ. できない	類似する事務事業はない。					

[3]効率性			A.高い	B.やや高い	C.やや低い	D.低い	[3]の評価	C
⑧成果を下げずに事業を工夫してコスト(直接事業費+人件費)を削減する手法はありませんか。 (業務改善、業務の委託化、委託業務内容の見直し、IT化などはできませんか。)		ア. ある イ. ない	安全運転講習の受講やドライブレコーダー設置により職員に対し、安全運転への意識を向上させ未然の事故防止に努める。					
⑨受益者負担の適正化余地はありませんか。 (歳入確保はできませんか。)		ア. ある イ. ない	年間走行距離の多い車両をピックアップし、それらの車両へ広告掲載する事で広告収入を得る。					

4. 総合評価

総合評価	評価(A~D)	個別評価の結果を踏まえて課題等を整理	A:現状のまま事業を進めることが適当 B:事業の進め方に改善が必要 C:事業規模、内容、実施主体の見直しが必要 D:事業の統合、休止・廃止の検討が必要
	B	修繕及び故障件数を改善するためには、コスト面を考慮しながら、適切な車両の更新が必要である。	

5. 改革、改善案【ACTION】

＜今後の方向性＞	
イ	ア. 現状のまま継続 イ. 見直しのうえで継続 ウ. 終了 エ. 休止 オ. 廃止 (年まで) (年から) (年から)
b	＜今後の展開方針＞ a. 重点化する(集中的なコスト投入) b. 手段を改善する(実施主体や実施手段を変える) c. 効率化する(コストを下げる) d. 簡素化する(規模を縮小する) e. 統合する(他の事務事業と統合する)
①改革、改善の具体案、実施年度など	安全運転講習等で意識の向上を図りながら、適正な車両維持管理に努めるとともに、費用対効果を前提に車両の更新を図る。車両更新時には、低燃費車及び普通・小型車から軽自動車への移行を推奨することで、維持管理費の低減を図る。
②改革・改善を実現するうえで、解決すべき課題及び考えられるその解決策	低年式及び過走行車両を優先的に更新していく計画であるが、財源的に計画的な購入が可能であるかどうか、購入が困難な場合は、段階的に管理車両を削減する等の対応が必要となる。